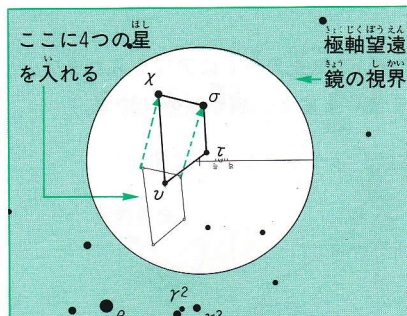


南半球での使い方

北半球での使い方もお読み下さい。

この極軸望遠鏡で天の南極を導入するためには、八分儀座を利用して極軸を合わせます。

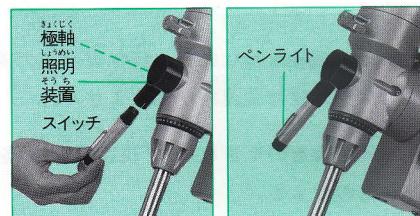
- ① 極軸がほぼ八分儀座を向くように望遠鏡を置きます。
 - ②～⑤は北半球での使い方を参照
 - ⑥ 極軸望遠鏡をのぞきながら、「方位」および「高度調整微動ネジ」を回してスケールの4個の小円に八分儀座の σ 、 χ 、 τ 、 ν の4個の星を導入します。
- 注※南半球で極軸望遠鏡を使用する時は、「月日目盛」・「時刻目盛」は使用しません。直接八分儀座の4個の星を導入して極軸合わせをします。



八分儀座	明るさ
σ	5.5等
χ	5.2等
τ	5.6等
ν	5.7等

■照明装置の使い方■

- ① 「照明装置」を極軸の先端の穴にさしこんで取りつけます。ペンライトのスイッチを入れると極軸望遠鏡の視界がうす赤くなり、スケールがはっきりと見えます。ペンライトのスイッチは左右どちらにもまわります。
- ② 赤道儀のすえつけが終わったあとは、この装置は取りはずしておきます。
- ③ ペンライトだけを取りだせば観測中に星図を見たり、スケッチをするときに利用できます。



きょくじくぼうえんきょう ちょうせいほうほう 極軸望遠鏡の調整方法

極軸望遠鏡は工場出荷時にすべて調整してあります。調整ネジをゆるめたり、強いショックを与えないかぎり光軸がずれることはありませんが、光軸のずれが生じた場合は次の方法で調整してください。

光軸ずれの発見方法

- ① 「赤経クランプ」をゆるめて極軸をまわし、「筒受」を極軸の右にもってきます。
- ② 「赤経クランプ」を少しゆるめて、極軸を傾ける操作と「方位調整微動ネジ」を使い、極軸望遠鏡のスケールの交点に、1 km以上はなれたアンテナやエントツの先をとらえます。
- ③ 「筒受」を極軸のまわりに180度回転します。
- ④ 極軸望遠鏡が正しく調整されていない場合は、右図のように中心からずれてきます。正しく調整されていれば、ずれることはありません。

